

Windows業務アプリ開発の弥勒

業務アプリ開発に特化した
驚異の VBアドオン プログラム機械生成ツール

MANDALA

for Visual Basic 5.0/6.0

機械生成で生産性向上

高い部品再利用性

ActiveXコントロール(OCX)がソフトウェアの「部品化再利用」への関心を高めたことは大いに評価できます。

しかし、これらの部品だけで業務アプリのプログラムコードを100%構成することは不可能です。
 つまり、部品と部品を繋ぎあわせ(糊付けし)、業務アプリに課される多様な要求を実現するために
 大量のイベントプロシージャを記述することになるからです。

そこでは操作・制御系コードの中に業務仕様を記述したコードが埋没しがちで、
 コードの再利用を困難にしています。

また、標準化を意識して開発したコードでさえ、プログラムの個性が現れ、
 メンテナンス不能な不良資産となることが大半です。

同じ手間を何度も掛けなければならない、「部品化再利用」の現状に誰が満足しているのでしょうか?

業務アプリに特化した「データ項目部品」

MANDALAを使用するには「顧客コード」「商品単価」「受注合計金額」など業務アプリの"織り目"をなすデータ項目ごとに業務仕様を記述していきます。業務によっては、この「データ項目部品」を1000~2000作成することになりますが、それぞれは役割がはっきりした100行に満たない小さな部品です。この部品を用意すれば、さらに言うとも一度用意してしまえば、後はMANDALAが指示に従って、「データ項目部品」を分析し、部品間の依存関係を踏まえて、糊付けすると同時に、操作・制御系コードを機械生成して付加します。これだけで完全な業務アプリを生成してしまうのです。「データ項目部品」は業務処理を十分に要素化したものなので、極めて高いレベルの再利用性を発揮します。特に同種の業務アプリ開発が続く場合、「データ項目部品」の再利用による効果は絶大です。

アプリケーションウィザードではありません

MANDALAはウィザードではありません。ソースプログラム全体の約30%を占める「データ項目部品」を準備すれば、MANDALAが残りの約70%を手直しがいらぬ状態で機械生成します。生成後に手直しすることを前提にしたアプリケーションウィザードとは根本的に異なるため、再生成がまったく苦にならず極めて高い生産性を確保できます。

日本の業務アプリに求められる操作性を実現します

キーボードによる素早いデータエンリ、プロンプティブなフォーカス移動など、日本の業務アプリ風土で育まれ洗練されてきた操作性がMANDALAの機械生成で簡単に実現できます。その他、画面のクリアなど標準機能のコードも機械生成されるので、操作性に関するプログラムを手作りする必要がありません。

カスタマイズサービス承ります [お抱えツール屋サービス]

機械生成された業務アプリの操作性に特別のご注文があれば、MANDALAが機械生成する操作・制御系のコードをご希望に沿ってカスタマイズいたします(有償)。

1,000人の
開発者が利用、
2万クライアントの
実績

MANDALAは、1,000人ほどの開発者に利用され、小規模開発だけでなく大手生命保険会社や大手信販会社、大手自動車メーカーなどの大規模な業務アプリケーション開発のメインツールとして大いに活躍し、すでにMANDALAで開発した業務アプリは、約2万クライアントで稼働済みです。また、ウッドランド(株)様の「RRR」や(株)内田洋行様の「スーパーカクテル」、富士通(株)様の「FM MAX」などのように、MANDALAで構築された統合パッケージ(ERP)やプログラム部品群も販売されています。これは、MANDALAの実用性と信頼性の揺るがない証拠だといえます。

操作や制御などに関するプログラムの生成テクノロジーを用いた機能

操作性に関するプログラムの自動生成

画面のクリア、明細行の削除、マルチ機能画面のモード変更、データの位置づけなどの操作機能(28種)は、指定をするだけで必要なプログラムが生成されます。この他の通常必要とする操作性に関するプログラムも、すべて生成されるので、操作性に関するプログラミングは不要になります。

高級イベントインタフェース

業務アプリに好都合な高級イベントインタフェース(データ項目部品用に19種、画面部品用に21種)を使うと、業務仕様に関するプログラムはまとまりがよい塊になるので、メンテナンスのしやすい業務アプリに仕上がります。なお、VBのイベントプロシージャでは、操作性に関するプログラムの中に業務仕様に関するプログラムが埋没してメンテナンス不能になりがちです。

マルチ機能画面

1つの画面の中で、データのエンタリも、参照も、更新も、削除も行えるようなマルチ機能の業務アプリに仕立てることが出来ます(単機能にすることも可能)。

データベースアクセスイベント

次のレコード読み込み、前のレコード読み込み、レコードの追加、変更、削除など必要な高級イベントルーチンをプログラミングすれば、どのようなデータベースにも対応できます(クライアントサーバ間の通信にも対応)。

部品群を糊付けして業務アプリに仕上げるテクノロジーを用いた機能

業務仕様に関するプログラムは、データ項目対応に完全に細分化され要素化された“データ項目部品”として記述することになりますが、後は必要な部品がそろえば、MANDALAはこれらを糊付けして業務アプリに仕上げます。また、データ項目部品は極めて再利用性が高いので、開発したデータ項目部品の大部分は、資産として他の業務アプリにも利用できます。したがって、部品が溜まれば溜まるほど、開発スピードが加速されていきます。

派生項目部品の自動呼出し

データ項目部品間の派生関係に従って、必要な時に必要なデータ項目部品を呼び出します。例えば、ヘッド内の項目の変更がボディ内の項目に影響を及ぼすような場合でも、問題なく処理されます。

データ項目の内容に関する(関係)チェック

単独のデータチェックだけでなく、複数の項目にインプットされたデータの間に特別な関係が成り立つ必要がある場合に、その関係をチェックするルーチンを作成し、再生成の指示をしていただくだけで、必要な時にチェックが行われ、エラー表示やその解除が自動的に行われる業務アプリになります。

その他の主な機能

フォーマット化したデータ表示/カーソル制御

フォーマットに従ったデータ表示やデータエンタリ時のプロンプティブなカーソル制御(フル桁インプットに次の項目に移動するなど)が簡単に指定できます。

メニュー取り込み

他の Visual Basic アプリのメニューをコピーして取り込めます。

バッチ処理(一括処理)

複数のプロジェクトの一括生成や EXE の一括作成の指示も可能です。



プログラムを書かなくても、この画面から文字列表示のフォーマットや入力文字のフィルタリング、カーソルの移動方法などが設定できてしまう。

標準価格 300,000円(消費税別) ランタイムライセンス別途

[動作環境] Windows 95/98/NT 4.0 Visual Basic 5.0(MANDALA V5の場合)/ Visual Basic 6.0(MANDALA V6の場合)

参考図書「ソフトウェア部品」 對馬靖人著、光芒社(旧・丸山学芸図書)、1998年。

AppliTechは、アプリテック株式会社の登録商標です。MANDALAは、アプリテック株式会社の商標として登録の申請を済ませています。その他記載されている製品名、会社名等は各社の商標または登録商標です。

APPLITECH

アプリテック株式会社

〒411-0017 三島市三恵台32-8

電話：0559-73-6823

Fax：0559-73-6824